大町岳陽高校　第１１回全校登山

燕岳～常念岳 隊



長野県大町岳陽高等学校

【パーティ編成】
職員 ４名　ＯＢ １名　 生徒 １９名（男子１７、女子２名）　計２４名

【諸注意】
①時間の厳守　②リーダー(生徒代表)の指示には必ず従う
③落石に注意を怠らない　④ゴミは必ず持ち帰る
⑤山小屋等で他の登山者に配慮する　⑥山小屋では節水する
⑦具合が悪くなったら早く申し出る
⑧当日の欠席は下記の両方へ5時までに電話連絡する
大町岳陽高校　0261-22-0024

【燕岳～常念岳隊】

期　　日：2026（令和８）年７月２３日(木)～２４日(金)　１泊２日
行動概要：7/24(木)　大町駅(5:00 集合)＝中房温泉ー燕山荘ー大天荘
7/24(木)　大天荘ー常念乗越ー最終水場ーエボシ沢ー駐車場

行動時間：１日目　８時間００分
２日目　６時間００分

宿 泊 地：7/24(木)　大天荘　　（Tel　090-9003-1253）

本　　部：大町岳陽高校（Tel　0261-22-0024）(教務直通：0261-22-9413）

行動中連絡場所　燕山荘　　Tel　090-1420-0008
常念小屋　　Tel　090-1430-3328

【当日中止の連絡体制】　※中止の場合、８時４５分までに登校
学校本部(4:40)

【山行時の連絡体制】
大町岳陽高校本部→生徒保護者
↓
（山荘経由か直接衛星電話）
↓

③

【１日目の行動計画】 7月23日（木）
①　大町駅(小型バス)　＝　松川駅　＝　穂高駅　＝　中房温泉(トイレ)
5:00 集合 5:10 出発　　5:30　　5:50　　6:30 着　7:00 発

登山開始ー合戦小屋ー燕山荘(昼食･トイレ)ー蛙岩ー為右衛門吊岩ー切通岩ー大天荘
7:00　　10:00　　11:00 着　11:40 発　　*大町高校慰霊碑　　14:00　　15:00
《行動予定時間　８：００》

① バス乗車 信濃大町駅(北駐車場) ５：００　１３名(生徒１０名・職員３名)
松川駅　５：３０　４名(生徒４名)
穂高駅　５：５０　６名(生徒５名・職員１名)

② 部屋割り　当日、大天荘にて確認
③ ミーティング　１６：３０～
④ 夕食　１７：３０～
⑤ 部屋消灯　２０：００　＊翌朝は出発が早いので、荷物の整理をしておこう。
⑥ 消灯　２１：００(厳守)

参加者名簿

【２日目の行動計画】７月２４日（金）
大天荘ー常念小屋ー笠原沢出合ー大滝ー　ーの沢登山口ータクシー乗り場
6:00　8:30　9:40　10:30　11:20　12:00

《行動予定時間　６：００》

装備

1、団体装備

ツエルト（1）

ロープ（1）・カラビナ（1）・スリング（1）

トランシーバー（2）

雷警報機・熊よけスプレー等

救急用品（含む体温計、消毒液）（1）

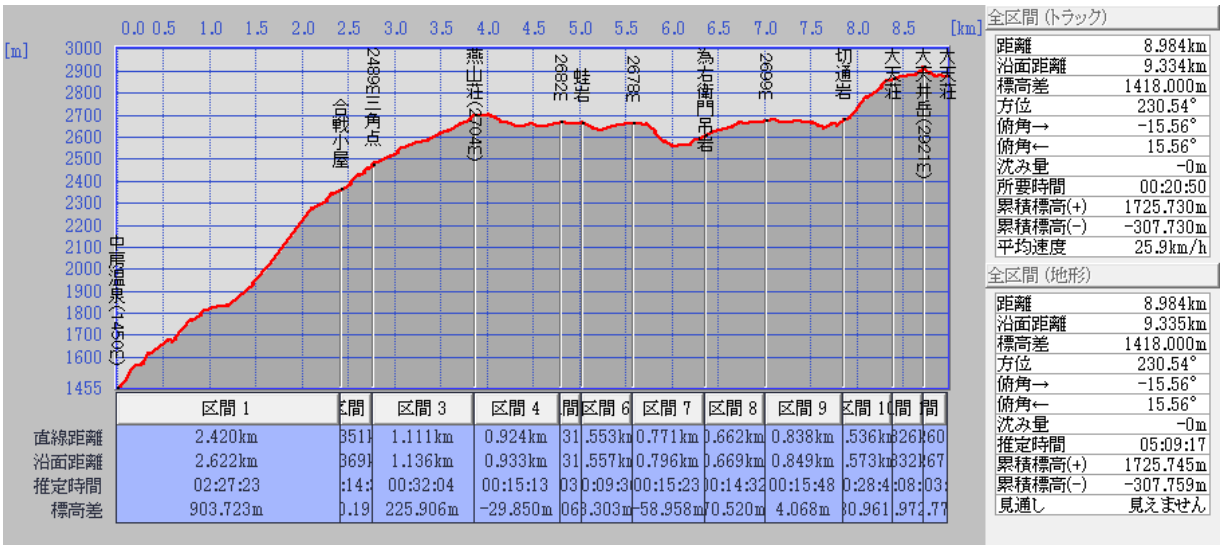
2、個人装備

① 衣　類　帽子・長袖シャツ・ズボン・雨具（ｾﾊﾟﾚｰﾄで丈夫なもの）・軍手または化繊手袋、厚手靴下（毛または化繊）・タオル・防寒具（フリースかダウン）、下着 T シャツ類（化繊）・登山靴（足首まで覆う頑丈なもの）

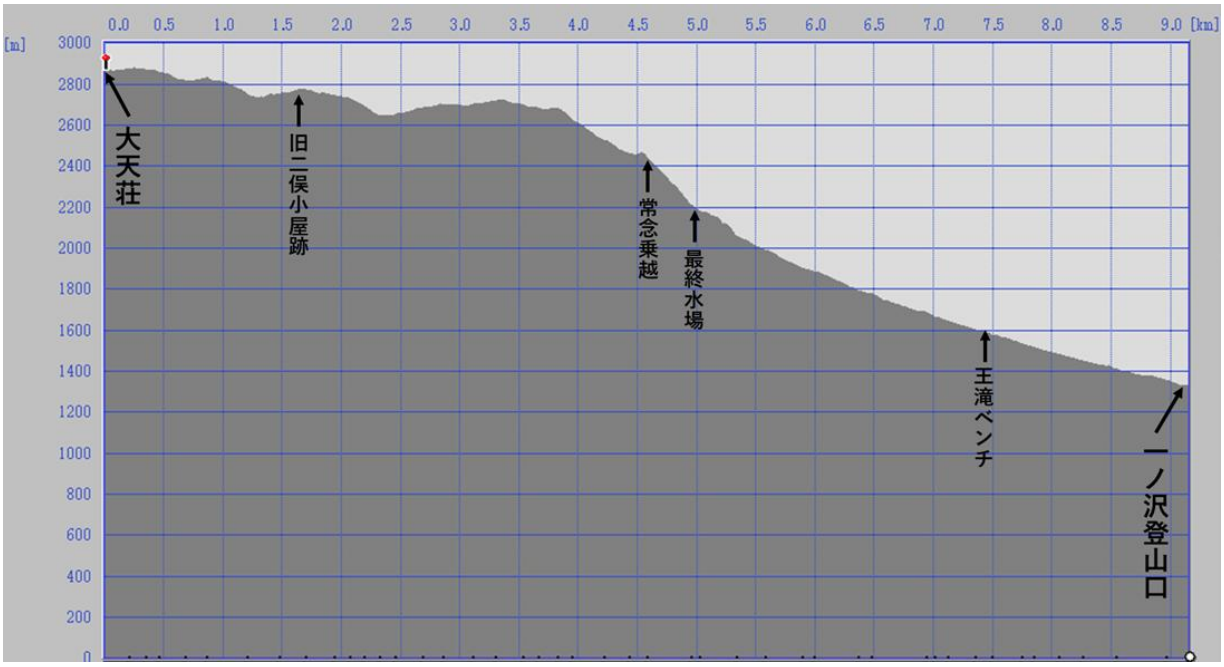
② 食　料　初日の昼食・行動食（飴、チョコ、チーズ、サラミ、など）
ｽﾎﾟｰﾂﾄﾞﾘﾝｸ粉末

③ 携行品　ザック（ザックカバーを携行するか、中身を大ビニールで防水する）・地図・しおり・ビニール袋・水筒 1.5Ｌ以上・筆記具・時計・ヘッドランプ
ﾄｲﾚｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰ・持薬・日焼け止め・虫除け・小銭・ストック・汗拭きシート
歯ブラシ・タオル

＊注意点　1、防寒対策　2、衣類等の防水　3、不要な物は持たずに軽量化する



1 日目　断面図



２日目　断面図

１日目　中房温泉⇒燕山荘⇒大天井岳　（コースタイム）

中房温泉から燕岳へ登る合戦尾根は北アルプス三大急登の一つに数えられるきつい登りだ。尾根に取り付くといきなり急坂が始まる。ちょうどひと休みしたいと思うころに、第一ベンチ、続いて第二ベンチ、第三ベンチ、富士見ベンチと続き、やがて合戦小屋に到着する。（3:00）

合戦小屋は売店だけの小屋で、スイカが名物だ。小屋から急坂をひと登りすると視界の開けた合戦沢ノ頭で、燕岳（つばくろだけ）がもう目の前だ。ここからは稜線上をいき、途中から右へ巻いて主稜線に出る。左へ階段を登ると燕山荘（えんざんそう）の玄関前に出る。（1:10）

燕山荘から花崗岩砂礫の稜線を南に向かう。右手は深く切れ込む高瀬の谷をはさんで、裏銀座コースの山々が並び、正面には大天井岳から槍ヶ岳に続く表銀座の山々、左手には安曇野平野、そして遠く浅間山までも望む爽快な縦走路だ。緩やかに登下降していくと蛙岩（げえろいわ）の岩峰群に出会う。岩塊の間を抜け、正面の大岩を左手に回りこんでいく。左手は小さなお花畑だ。緩やかな起伏をいくと 2678m のピークに着く。少し進むと、いっきに 100m ほど高度を下げる大下りとなる。背の低いカラマツの風衝木の斜面をジグザグに下る。下りついた鞍部から安曇野側を巻いて少し登り返すと為右衛門吊岩（ためえもんつりいわ）。しばらく登って、起伏の少ない縦走路を進む。砂礫の斜面にはコマクサやタカネスミレの群落が見られる。短いクサリ場を下ると切通岩（きりとおしいわ）の鞍部だ。(1:50)

右手の岩にこの縦走路の開拓者、小林喜作のレリーフがはめ込まれている。岩礫帯の登りとなり、わずかに行くと分岐となる。右は大天井岳を巻いて大天井ヒュッテへ、ここは左へ大天井の東面を巻くように登り、大天荘（だいてんそう）の建つ稜線に出る。(0:40)

2日目　大天井岳⇒東天井岳⇒横通岳⇒常念乗越⇒駐車場　（コースタイム）

大天井岳からは槍ヶ岳方面の表銀座コースを分け、常念岳方面へ。テント場の脇から常念岳と向かう。広くて明るい山稜である。旧二俣小屋跡の石積みを過ぎて東天井岳の山頂を巻いて行きます。(1:30)

道が大きく左手下に折れる手前、道標が建つあたりは好展望の休憩ポイント。この近くには比較的遅くまで雪渓が残ります。長い下りの後、横通岳へゆるやかに登り返します。横通岳は、その名の通り山頂を巻き、小屋のある常念乗越へと下ります。常念小屋は常念乗越の梓川側へわずかに下ったところにある。小屋の向こうに槍ヶ岳山頂が見える。（かもしれない）(1:30)

小屋を出発すると、最初はハイマツ帯の中のガレ場・ザレ場を下ります。浮き石が多くて滑りやすいため、足元に注意してください。 徐々に傾斜が急になり、このルート最大の難所である急坂「胸突八丁」に入ります。階段や手すり（グリーンロープなど）が整備されている箇所もありますが、段差が大きく膝に負担がかかりやすいので、慎重に下りましょう。

急坂を終えると「最後の水場」を通過し、樹林帯の中へ入っていきます。ここからは沢の音が大きくなり、傾斜も少しずつ緩やかになります。 笠原沢周辺など、途中で丸太橋を渡るポイントがいくつかあります。（橋を渡るときは一人ずつ！）雨の後などは増水して滑りやすくなるため、足元をしっかり確認して渡ってください。沢のすぐ脇を通ったり、少し高巻いたりを繰り返しながら進む気持ちの良い樹林帯の道です。 王滝ベンチは河原のすぐ近くにあり、休憩に最適なスポットです。下山の疲れを癒やすのにちょうど良い中間地点となります。ここまで来ると傾斜はかなりなだらかになり、道幅も広くなって歩きやすくなります。 登山口の少し手前には、山の安全を祀る「山の神」の鳥居があります。ここを通過すると間もなく、トイレや登山相談所のある一の沢登山口に到着です。駐車場まで 40 分･･･。

部屋割

Ｍｅｍｏ

長野県大町岳陽高等学校

年	組	氏 名


大天井
標高 2